別記様式第8号（別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第5、別記4の第6、別記5の第6、別記9の第6の1の（1）関係）

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業（都道府県広域捕獲活動支援事業）、鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業、シカ・クマ特別対策等事業、鳥獣被害防止対策促進支援事業（広域柵等鳥獣被害防止施設整備事業）の評価報告（令和6年度報告）

栃木県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

県内25市町のうち、令和元年度末までに全市町が被害防止計画を作成し、鳥獣被害防止対策に取り組んでいる。全市町がイノシシを対象獣種として設定しているほか、県北部及び県西部の山間部を含む市町を中心に22市町がニホンジカ、11市町がツキノワグマ、22市町がニホンザルを対象獣種として設定している。また、ハクビシン及びアライグマについては平野部にも被害が拡大しており、全市町が対象獣種に設定している。また、鳥類についても、全市町が対象として設定している。

2 事業効果の発現状況

被害防止計画を作成した25市町のうち、24市町で地域協議会が設置され、地域ぐるみで被害防止活動を実施する体制整備が進んでいる。特に、協議会や県が実施する講習会や研修会などを通して、地域住民の被害対策意識の向上や集落の環境整備、捕獲技術向上等が図られるほか、捕獲器材の導入等による捕獲体制の整備・拡充が実施されている。

シカ及びイノシシの捕獲頭数については、捕獲体制の整備等により捕獲が強化され、近年は高水準を推移しているが、令和3年度のイノシシ捕獲数は大きく減少（対前年度比53%）し、4年度以降は微増となった。これは、これまで「シカ・イノシシの生息数半減」の早期達成を目指し、本交付金の緊急捕獲活動支援事業や県単独事業（シカ・イノシシ捕獲強化事業）を活用して市町の有害捕獲を強力に支援してきたことや、市町の有害捕獲が十分に行われていない区域を選定して県が指定管理鳥獣捕獲等事業を実施し、捕獲対策を一層強化してきたこと、また、スマート捕獲等の効率的・効果的な捕獲技術の実証・普及推進を図ってきた効果により個体数が減少してきたところに、令和3年度に野生イノシシにおける豚熱感染拡大が追い打ちをかけ、その後個体数が回復しつつあるためと考える。

また、栃木県における野生鳥獣類による農作物被害金額は平成18年度以降減少傾向にあったものの、平成23年から再び増加していたが、平成29年度で減少に転じている。令和6年度は約2億4千3百万円であり、対前年度比135%であった。捕獲と合わせて、侵入防止柵の設置や各種推進事業に取り組んでいる地域においては、被害軽減の効果が現れているが、生息域の拡大にともない、被害対策が実施されていない地域における地域ぐるみの被害対策や、対策実施地域における継続した取組が課題となっている。地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。

3 被害防止計画の目標達成状況

令和6年度を目標年度と設定し、事業に取り組んだ14市町・協議会のうち、11市町・協議会で目標を達成した。被害防止計画の目標の達成状況を記載する。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名（協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額 現状値	被害金額 目標値	被害金額 実績値	被害金額 達成率	被害面積 現状値	被害面積 目標値	被害面積 実績値	被害面積 達成率	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
宇都宮市鳥獣被害防止対策協議会	宇都宮市	R4	イノシシ ハクビシン	有害捕獲 緊急捕獲活動	・イノシシ用くくりわな80基 ・イノシシ用箱わな1基 ・イノシシ用鼻くくりわな12基 ・ハクビシン等用箱わな33基 ・イノシシ用保定具10セット ・電気止め刺し4基 ・遠隔わな監視装置11基 ・わな猟新規取得者捕獲講習会1回 ・イノシシ成獣19頭	協議会			有害鳥獣捕獲の実施体制が整備され、効果的な捕獲及び被害の軽減に繋がった。 捕獲活動への金銭的支援を行い，個人捕獲者の意欲が向上し，積極的な捕獲活動が図られた	イノシシ 7,961千円 ニホンジカ 0千円 ハクビシン 4,886千円 タヌキ 2,621千円 計 15,468千円	イノシシ 5,471千円 ニホンジカ 0千円 ハクビシン 4,235千円 タヌキ 2,165千円 計 11,871千円	イノシシ 4,833千円 ニホンジカ 0円 ハクビシン 6,372千円 タヌキ 899千円 計 12,104千円	イノシシ 126% ニホンジカ 100% ハクビシン −228% タヌキ 338% 計 94%	イノシシ 6.31ha ニホンジカ 0ha ハクビシン 1.33ha タヌキ 8.93ha 計 8.93ha	イノシシ 4.41ha ニホンジカ 0ha ハクビシン 0.99ha タヌキ 1.03ha 計 6.43ha	イノシシ 3.31ha ニホンジカ 0ha ハクビシン 0.87ha タヌキ 0.33ha 計 4.51ha	イノシシ 157.9% ニホンジカ 100% ハクビシン 135.3ha タヌキ 369.2ha 計 177%	イノシシ・シカについては，実施部隊・個人の両捕獲実施主体へワナ貸出や金銭的支援などの必要な支援を行うことにより，被害箇所を中心に効果的な捕獲活動が行われ，被害金額・面積ともに大幅に減少させることができた。 ハクビシン等中型獣については，市と連携し，捕獲活動の実質無償化を図ることで，市民の捕獲意欲の向上につながっており，タヌキについては目標を達成することができたが，ハクビシンにおいては目標達成に至らなった。その要因としては，中型獣全般において市内全域での目撃・被害情報が相次いでおり，捕獲以上の生息数増加と生息域の拡大が進んでいるものと考えられることから，引き続き市全域での捕獲意欲の向上と捕獲活動の支援を図っていく必要がある。	イノシシについては，実施部隊・個人捕獲者の積極的な捕獲活動が成果を上げたことで被害額の減少を図れている。今後も積極的な捕獲活動を継続するためには，新たな人材の確保図るとともに，捕獲活動の省力化・効率化を図るためのICT機器の活用が必要と考える。 中型獣（ハクビシン・アライグマ・タヌキ）については，市全域で農作物被害のみならず，その周辺での生活環境被害が増加していることから，自治会単位など地域で一体的な捕獲活動が必要である。	イノシシによる被害が金額、面積ともに大きく減っている。実施部隊・個人捕獲者の積極的な捕獲活動が成果をあげたが，今後はより効果的な捕獲と生息環境改善に取り組む必要がある。 ハクビシンの被害対策を効果的に実施できたことにより、中型獣（タヌキ等）の被害軽減に一定の効果が出ている。しかし、それ以上に被害が増加する傾向があるため、ハクビシンを含めた中型獣について対策を周知するとともに、集落・生産部会単位での一体的な被害対策が重要である。
		R5	イノシシ ハクビシン	有害捕獲 緊急捕獲活動	・イノシシ用くくりわな70基 ・イノシシ用鼻くくりわな7基 ・ハクビシン等用箱わな35基 ・イノシシ用保定具16セット ・電気止め刺し5基 ・トレイルカメラ5台 ・わな猟新規取得者捕獲講習会1回 ・ハクビシン等被害対策講習会1回 ・イノシシ成獣17頭	協議会			有害鳥獣捕獲の実施体制が整備され、効果的な捕獲及び被害の軽減に繋がった。 捕獲活動への金銭的支援を行い，個人捕獲者の意欲が向上し，積極的な捕獲活動が図られた											
		R6	イノシシ ハクビシン	有害捕獲 緊急捕獲活動	・イノシシ用くくりわな110基 ・イノシシ用箱わな1基 ・ハクビシン等用箱わな34基 ・アニマルセンサー4基 ・わな猟新規取得者捕獲講習会1回 ・ハクビシン等被害対策講習会1回 ・イノシシ成獣27頭	協議会			有害鳥獣捕獲の実施体制が整備され、効果的な捕獲及び被害の軽減に繋がった。 捕獲活動への金銭的支援を行い，個人捕獲者の意欲が向上し，積極的な捕獲活動が図られた											
栃木市野生鳥獣対策被害対策連絡協議会	栃木市	R4	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ハクビシン アライグマ 鳥類	有害捕獲 緊急捕獲活動	電気止めさし機22基 捕獲器の持ち手10式 箱わな5基 くくりわな96基 イノシシ成獣1060頭、イノシシ幼獣120頭、シカ成獣584頭、シカ幼獣16頭、サル成獣1頭、ハクビシン138頭、アライグマ 174頭、鳥類319羽	協議会			猟友会への捕獲用資機材の提供により有害捕獲活動の強化に繋がった。 緊急捕獲活動により捕獲従事者の意欲が高まり、効果的な捕獲に繋がった。	イノシシ・シカ・サル 1,263千円 鳥類 56千円 ハクビシン 4,979千円 合計 6,298千円	イノシシ・シカ・サル 1,000千円 鳥類 45千円 ハクビシン 4,000千円 合計 5,045千円	イノシシ・シカ・サル 7,284千円 鳥類 79千円 ハクビシン 3,336千円 合計 10,699千円	イノシシ・シカ・サル −2289% 鳥類 209% ハクビシン 168% 合計 3519%	イノシシ・シカ・サル 357a 鳥類 1z ハクビシン 41a 合計 399	イノシシ・シカ・サル 280a 鳥類 1a ハクビシン 33a 合計 314a	イノシシ・シカ・サル 583a 鳥類 2a ハクビシン 20a 合計 605a	イノシシ・シカ・サル −294% 鳥類 − ハクビシン 263% 合計 242%	猟友会による有害捕獲、藪や茂みの刈払い等の環境整備、市補助金を活用しての侵入防止柵の設置を実施するとともに、地元住民が正しい知識に基づく対策を実施できるよう、鳥獣管理士を招いての学習会等を開催することで、鳥獣害対策の3本柱の推進を図った。 被害状況については、イノシシによる被害が最も多く、近年は渡良瀬遊水地からの出没個体による農業被害が著しく、市全体の被害額・被害面積は大幅に増加となった。これらの現状を踏まえ、今まで以上に国や県、地元自治体が一体となって渡良瀬遊水地対策を進めていく必要がある。 鳥類については、猟友会に委託してのカラス等の追い払い・駆除を実施し、目標ニそ達成できなかったものの、一定の被害防止効果を得られた。 ハクビシンについては、被害を受けている住民自身または猟友会による捕獲を推進し、目標を達成することができた。	引き続き、今までの対策（捕獲・侵入防止対策・生息環境整備）を推進することが重要であるとともに、自己防衛及び集団防衛の重要性を被害地域全体に広める必要がある。 なお、ハクビシン・アライグマは、市の箱わなの貸与等により自己防衛が進んでいると考えられる。 今回の被害額の多くを占める渡良瀬遊水地周辺のイノシシ被害については、市単独での対応は厳しく、関係市町や県、国が一体となり対策を検討していく必要がある。	猟友会と連携した捕獲や藪等の刈り払いを進めるとともに、鳥獣管理士等と連携して獣害発生地域における地域住民の知識向上や罠や柵の設置を進め、効果が徐々に現れてきている一方で、渡良瀬遊水地でのイノシシの生息が大幅に増加し、近隣での被害が増加し、目標達成にはいたらなかった。引き続き地域住民と関係機関等が連携した更なる対策の強化が必要である。
		R5	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ハクビシン アライグマ 鳥類	有害捕獲 生息環境管理 実施隊体制強化 緊急捕獲活動	箱わなス9基 箱わな小11基 くくりわな41基 電気止めさし器2基 センサーカメラ 実施隊活動経費 新規実施隊へのOJT研修 イノシシ成獣709頭、イノシシ幼獣46頭、シカ成獣525頭、シカ幼獣18頭、サル成獣2頭、ハクビシン74頭、アライグマ 207頭、鳥類354羽	協議会			猟友会への捕獲用資機材の提供により有害捕獲活動の強化に繋がったほか、緩衝帯の整備によりイノシシ及びシカによる被害を低減することができた。 緊急捕獲活動により捕獲従事者の意欲が高まり、効果的な捕獲に繋がった。											
		R6	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ハクビシン アライグマ 鳥類	侵入防止柵 有害捕獲 被害防除 生息環境管理 サル複合対策 緊急捕獲活動	WM柵253m 既設柵補強2,200m 電気止めさし器.箱わな大 箱わな小 研修開催 実施隊日当 箱わな中4基 生息状況調査 研修開催 イノシシ成獣1116頭、イノシシ幼獣174頭、シカ成獣503頭、シカ幼獣28頭、サル成獣3頭、ハクビシン99頭、アライグマ 246頭、鳥類270羽	協議会			猟友会への捕獲用資機材の提供により有害捕獲活動の強化に繋がったほか、緩衝帯の整備によりイノシシ及びシカによる被害を低減することができた。また、ワイヤーメッシュ柵を設置した箇所においては、イノシシの侵入被害が無くなった。 そのほか、サル複合対策については、GPSによる行動追跡調査を実施することで、群れの数や行動範囲等を把握することができた。 緊急捕獲活動により捕獲従事者の意欲が高まり、効果的な捕獲に繋がった。											
佐野市有害鳥獣被害対策協議会	佐野市	R4	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ツキノワグマ ハクビシン アライグマ 鳥類	有害捕獲 被害防除 緊急捕獲活動	くくりわな260基 箱わな大6基 わな猟講習会 イノシシ成獣585頭、イノシシ幼獣21頭、シカ成獣1020頭、シカ幼獣31頭、サル成獣29頭、サル幼獣5頭、	協議会			わなの増設等により捕獲体制が整備され、捕獲につながった。 緊急捕獲活動により捕獲従事者の意欲が高まり、効果的な捕獲に繋がった。	イノシシ 2,101千円 ニホンジカ 2,666千円 計 2,367千円	イノシシ 1,452千円 ニホンジカ 204千円 計 1,656千円	イノシシ 7,267千円 ニホンジカ 2,989千円 計 10,256千円	イノシシ −759% ニホンジカ −4391% 計 −1109%	イノシシ 534a ニホンジカ 73a 計 607a	イノシシ 435a ニホンジカ 73a 計 508a	イノシシ 856a ニホンジカ 515a 計 1371a	イノシシ −325% ニホンジカ − 計 −771%	イノシシの個体数が豚熱からの回復により個体数が大幅に増加したため、捕獲数が過去3年と比較して大幅に増加したが、被害額が大幅に増えた。 ニホンジカの個体数も高止まりしており、囲い罠などで大量捕獲ができなかったことも一因と考える。	引き続き猟友会と連携し捕獲圧を上げ、野生獣の駆除を推進されたい。 わな免許保持者を確保するため県と連携し周知に努めていただきたい。	罠の配布や罠猟講習会の開催により捕獲は強化されているものの、イノシシ、シカとも被害金額、面積が基準年より増加している現状である。今後、侵入防止や環境整備の必要性を地域住民へ理解させる取組も必要と思われる。
		R5	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ツキノワグマ ハクビシン アライグマ 鳥類	有害捕獲 被害防除 緊急捕獲活動	くくりわな315基 箱わな中6基 わな猟講習会 イノシシ成獣525頭、イノシシ幼獣26頭、シカ成獣944頭、シカ幼獣21頭、サル成獣29頭、サル幼獣17頭	協議会			わなの増設等により捕獲体制が整備され、捕獲につながった。 緊急捕獲活動により捕獲従事者の意欲が高まり、効果的な捕獲に繋がった。											
		R6	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ツキノワグマ ハクビシン アライグマ 鳥類	有害捕獲 被害防除 緊急捕獲活動	くくり罠238基 わな猟講習会 イノシシ成獣1,010頭、イノシシ幼獣50頭、ニホンジカ成獣866頭、ニホンジカ幼獣29頭、ニホンザル成獣10頭、ニホンザル幼獣1頭	協議会			わなの増設等により捕獲体制が整備され、捕獲につながった。 緊急捕獲活動により捕獲従事者の意欲が高まり、効果的な捕獲に繋がった。											

真岡市鳥獣被害防止対策協議会	真岡市	R4	イノシシ ハクビシン カラス カモ	有害捕獲 緊急捕獲活動	くくりわな60台 イノシシ成獣49頭、イノシシ幼獣2頭	協議会			くくりわなを導入したことでイノシシの捕獲の確率上昇につながった。 また捕獲者に捕獲経費を直接支払うことにより捕獲者の意欲向上につながっている。	イノシシ 12,821千円 ハクビシン 911千円 カラス 567千円 カモ 2,666千円 計 16,965千円	イノシシ 11,539千円 ハクビシン 820千円 カラス 510千円 カモ 2,399千円 計 15,268千円	イノシシ 6,581千円 ハクビシン 2,944千円 カラス 1,085千円 カモ 1,085千円 計 11,350千円	イノシシ 487% ハクビシン −2234% カラス −304% カモ 592% 計 331%	イノシシ 428a ハクビシン 3a カラス 120a カモ 200a 計 751a	イノシシ 385a ハクビシン 2a カラス 108a カモ 180a 計 675a	イノシシ 155a ハクビシン 13a カラス 130a カモ 85a 計 378a	イノシシ 635% ハクビシン −1000% カラス −42% カモ 575% 計 491%	カラスの被害金額の大幅な増加については主な被害作物である水稲価格の高騰によるものである。 ハクビシンの被害の増加については市内全域にわたる住民からの相談・通報が増えており生息数が増加傾向にあると考えられるためである。 また、真岡市では小貝川東部(南東部)にイノシシの被害が集中している。その地区は協力的であり、地域住民で下草刈りを行ったり、定期的な見回りを実施したりすることで被害の軽減に繋がっている。またICT技術の導入により、イノシシの生態を把握することで被害を未然に防ぐことにつながっている。しかし、高齢化等によって担い手の減少や耕作放棄地の増加などによる被害の増大が見込まれるためさらなる負担軽減を図る必要がある。	真岡市におけるイノシシ被害は、地理学的に小貝川東部（市南東部）に集中する構図となっている為、地元住民とは知り合いも多く、協力的で連携の 取れやすい関係を築けている。 ICT 技術の導入は捕獲数向上以外に高齢者の見回りの負担軽減にもなっているため、センサーカメラによる遠隔捕獲やドローン技術による見回りの効率化なども今後は視野に入れるとよい。 直近の課題としては新規担い手の確保と、近隣市町と連携した包括的な被害軽減の対策を講じていく必要が あると考える。 また、カラスやハクビシンによる被害は泣き寝入りすることも多く、実際の被害は想定外に大きいと思われる。アンケート等による実被害調査結果やGISを活用した空間分析などにより効率的に防除対策を行うことが必要になると考える。	真岡市におけるイノシシ生息地である小貝川東部地区で、住民による下草刈りを行うなど効果的な環境整備を行い、模範的な取組である。ICTによる省力化にも取り組んでおり、今後の取組に期待できる。
		R5	イノシシ ハクビシン カラス カモ	有害捕獲 緊急捕獲活動	狩猟わな捕獲通知機器16セット イノシシ成獣58頭、イノシシ幼獣1頭	協議会			捕獲通知機器を導入したことでイノシシの生体の把握および捕獲の確率上昇につながった。 また捕獲者に捕獲経費を直接支払うことにより捕獲者の意欲向上につながっている。													
		R6	イノシシ ハクビシン カラス カモ	有害捕獲 緊急捕獲活動	暗視カメラ12台 イノシシ成獣69頭、イノシシ幼獣2頭	協議会			暗視カメラを導入したことでイノシシの生体の把握および捕獲の確率上昇につながった。 また捕獲者に捕獲経費を直接支払うことにより捕獲者の意欲向上につながっている。													
矢板市	矢板市	R4	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ツキノワグマ ハクビシン・ アライグマ カラス カモ	緊急捕獲活動	イノシシ(成獣)82頭、イノシシ(幼獣)5頭、シカ(成獣)407頭、シカ(幼獣)10頭	市			わなの増設のほか、市民からの獣害情報を速やかに捕獲従事者(鳥獣被害対策実施隊)に伝達し、早急なわな設置につなげることで、効率的かつ重点的な捕獲活動を実現した。	イノシシ 18,465千円 ニホンジカ 2,072千円 ニホンザル 31千円 ツキノワグマ 61千円 ハクビシン・アライグマ 21千円 カラス 693千円 カモ 373千円 計 21,716千円	イノシシ 16,500千円 ニホンジカ 1,800千円 ニホンザル 30千円 ツキノワグマ 50千円 ハクビシン・アライグマ 20千円 カラス 600千円 カモ 300千円 計 19,300千円	イノシシ 10,694千円 ニホンジカ 2,442千円 ニホンザル 256千円 ツキノワグマ 40千円 ハクビシン・アライグマ 192千円 カラス 473千円 カモ 305千円 計 14,402千円	イノシシ 395% ニホンジカ −136% ニホンザル −22500% ツキノワグマ 191% ハクビシン・アライグマ −17100% カラス 237% カモ 93% 計 303%	イノシシ 1,457a ニホンジカ 193a ニホンザル 6a ツキノワグマ 13a ハクビシン・アライグマ 5a カラス 20a カモ 29a 計 1723a	イノシシ 1300a ニホンジカ 150a ニホンザル 5a ツキノワグマ 10a ハクビシン・アライグマ 3a カラス 15a カモ 25a 計 1508a	イノシシ 877a ニホンジカ 224a ニホンザル 4a ツキノワグマ 7a ハクビシン・アライグマ 3a カラス 13a カモ 24a 計 1152a	イノシシ 369% ニホンジカ −72% ニホンザル 200% ツキノワグマ 200% ハクビシン・アライグマ 100% カラス 140% カモ 124% 計 266%	鳥獣被害対策実施隊による捕獲強化により、シカおよびイノシシの捕獲頭数は年々増加傾向にある。ただし、シカは北部地域の集落付近での生息が常態化し、稲等の食害が目立つとともに、イノシシは市内ほぼ全域で出没があり、農作物の踏み倒しや畦畔が崩される等の被害が深刻であることから、両獣への対策には捕獲のほか、侵入防止柵の設置導入や生息環境の整備促進を行う必要がある。 カラス、カモ等の有害鳥捕獲を毎年度継続して5月に実施するとともに、サル、ツキノワグマに対しては農作物のほか人身被害防止も併せて注意喚起を行うことで被害面積は減少傾向にある。 なお、令和6年度は市内中心部でも出没増加傾向にあるハクビシン・アライグマへの有害捕獲を開始することで被害増加を抑制させることができた。	計画目標合計としては、被害面積、金額とも大幅に目標達成を実現した。 主な達成要因は、次の3点が考えられる。 1．毎年度、鳥獣被害防止対策総合交付金活用により購入したくくりわなを鳥獣被害対策実施隊の各隊員に分配し、持続的な捕獲活動への支援に取り組むことで捕獲頭数増加を実現した・・・捕獲 2．獣害防止柵設置者に対する市補助金「有害獣侵入防止柵設置事業費補助金」の累計申請数が119件（令和6年度末時点）となるなど、個人単位での被害防止対策が図られてきた・・・防護 3．令和元年度以降、被害が深刻な集落に対して「とちぎ獣害対策アドバイザー派遣事業」「農業被害防止サポーター事業」を活用したほか、市による出前講座や座談会を実施し、集落ぐるみによる耕作放棄地ややぶの適正管理の促進を図ってきた・・・環境整備 個別の状況については、イノシシは、市内ほぼ全域に生息し、特に夏場は掘り起こし等による被害が集中しており、警戒心が強いことから捕獲は容易ではないものの継続して捕獲圧を緩めないこと、電気柵等の管理をきちんとすることで、防除していくことも重要。 シカについては、頭数が増加するとともに生息エリアが拡大しつつある。移動範囲が広いが、通り道に罠をかけることで捕獲は可能。 クマについては、ここ数年、人里近くに出没するケースが増えてきた。人身被害を防止するうえでも餌となる作物等を放置しないことが必要。 サルについては、まれにはぐれザルが市内各所で出没する程度であるが、今後、群れによる出没とならないよう放任果樹の撤去に取り組むことが必要。 ハクビシン、アライグマについては、住宅地での出没が見受けられる。令和6年度から有害捕獲を開始し捕獲強化に着手したが、空き家等で繁殖しているとも考えられることから、農業分野以外の観点からも働きかけることができるといい。 カラス・カモについては、5月に市内全域で銃による捕獲を行っている。警戒心を持たせるために今後も続けていくことは有効である。 今後も環境整備、捕獲、侵入防止対策の3つを継続して取り組むことが求められている。被害防止は長期的な視点で考えることが必要であり、引き続き、捕獲圧力をかけ続けることが大切である。	継続的な捕獲活動により、着実に成果が上がっている。 イノシシ・シカ対策については侵入防止柵の設置が進行中であり、生育環境の整備の取組と併せて今後効果が期待される。 ハクビシン・アライグマの出没が市内全中心に増加しており、市民向けの対策意識啓発を含め総合的な対応が必要である。
		R5	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ツキノワグマ ハクビシン・ アライグマ カラス カモ	緊急捕獲活動	イノシシ(成獣)82頭、イノシシ(幼獣)7頭、シカ(成獣)472頭、シカ(幼獣)9頭	市			わなの増設のほか、市民からの獣害情報を速やかに捕獲従事者(鳥獣被害対策実施隊)に伝達し、早急なわな設置につなげることで、効率的かつ重点的な捕獲活動を実現した。													
		R6	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ツキノワグマ ハクビシン・ アライグマ カラス カモ	緊急捕獲活動	イノシシ(成獣)129頭、イノシシ(幼獣)4頭、シカ(成獣)450頭、シカ(幼獣)5頭、ハクビシン 10頭、アライグマ 2頭	市			わなの増設のほか、市民からの獣害情報を速やかに捕獲従事者(鳥獣被害対策実施隊)に伝達し、早急なわな設置につなげることで、効率的かつ重点的な捕獲活動を実現した。													
矢板市鳥獣被害対策協議会	矢板市	R4	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ツキノワグマ ハクビシン・ アライグマ カラス カモ	有害捕獲	くくりワナ150基 クマ捕獲器1基	協議会			有害鳥獣捕獲実施体制の整備を充実させ、捕獲を促進したことで農作物の被害軽減を図ることができた。	イノシシ 18,465千円 ニホンジカ 2,072千円 ニホンザル 31千円 ツキノワグマ 61千円 ハクビシン・アライグマ 21千円 カラス 693千円 カモ 373千円 計 21,716千円	イノシシ 16,500千円 ニホンジカ 1,800千円 ニホンザル 30千円 ツキノワグマ 50千円 ハクビシン・アライグマ 20千円 カラス 600千円 カモ 300千円 計 19,300千円	イノシシ 10,694千円 ニホンジカ 2,442千円 ニホンザル 256千円 ツキノワグマ 40千円 ハクビシン・アライグマ 192千円 カラス 473千円 カモ 305千円 計 14,402千円	イノシシ 395% ニホンジカ −136% ニホンザル −22500% ツキノワグマ 191% ハクビシン・アライグマ −17100% カラス 237% カモ 93% 計 303%	イノシシ 1,457a ニホンジカ 193a ニホンザル 6a ツキノワグマ 13a ハクビシン・アライグマ 5a カラス 20a カモ 29a 計 1723a	イノシシ 1300a ニホンジカ 150a ニホンザル 5a ツキノワグマ 10a ハクビシン・アライグマ 3a カラス 15a カモ 25a 計 1508a	イノシシ 877a ニホンジカ 224a ニホンザル 4a ツキノワグマ 7a ハクビシン・アライグマ 3a カラス 13a カモ 24a 計 1152a	イノシシ 369% ニホンジカ −72% ニホンザル 200% ツキノワグマ 200% ハクビシン・アライグマ 100% カラス 140% カモ 124% 計 266%	鳥獣被害対策実施隊による捕獲強化により、シカおよびイノシシの捕獲頭数は年々増加傾向にある。ただし、シカは北部地域の集落付近での生息が常態化し、稲等の食害が目立つとともに、イノシシは市内ほぼ全域で出没があり、農作物の踏み倒しや畦畔が崩される等の被害が深刻であることから、両獣への対策には捕獲のほか、侵入防止柵の設置導入や生息環境の整備促進を行う必要がある。 カラス、カモ等の有害鳥捕獲を毎年度継続して5月に実施するとともに、サル、ツキノワグマに対しては農作物のほか人身被害防止も併せて注意喚起を行うことで被害面積は減少傾向にある。 なお、令和6年度は市内中心部でも出没増加傾向にあるハクビシン・アライグマへの有害捕獲を開始することで被害増加を抑制させることができた。	計画目標合計としては、被害面積、金額とも大幅に目標達成を実現した。 主な達成要因は、次の3点が考えられる。 1．毎年度、鳥獣被害防止対策総合交付金活用により購入したくくりわなを鳥獣被害対策実施隊の各隊員に分配し、持続的な捕獲活動への支援に取り組むことで捕獲頭数増加を実現した・・・捕獲 2．獣害防止柵設置者に対する市補助金「有害獣侵入防止柵設置事業費補助金」の累計申請数が119件（令和6年度末時点）となるなど、個人単位での被害防止対策が図られてきた・・・防護 3．令和元年度以降、被害が深刻な集落に対して「とちぎ獣害対策アドバイザー派遣事業」「農業被害防止サポーター事業」を活用したほか、市による出前講座や座談会を実施し、集落ぐるみによる耕作放棄地ややぶの適正管理の促進を図ってきた・・・環境整備 個別の状況については、イノシシは、市内ほぼ全域に生息し、特に夏場は掘り起こし等による被害が集中しており、警戒心が強いことから捕獲は容易ではないものの継続して捕獲圧を緩めないこと、電気柵等の管理をきちんとすることで、防除していくことも重要。 シカについては、頭数が増加するとともに生息エリアが拡大しつつある。移動範囲が広いが、通り道に罠をかけることで捕獲は可能。 クマについては、ここ数年、人里近くに出没するケースが増えてきた。人身被害を防止するうえでも餌となる作物等を放置しないことが必要。 サルについては、まれにはぐれザルが市内各所で出没する程度であるが、今後、群れによる出没とならないよう放任果樹の撤去に取り組むことが必要。 ハクビシン、アライグマについては、住宅地での出没が見受けられる。令和6年度から有害捕獲を開始し捕獲強化に着手したが、空き家等で繁殖しているとも考えられることから、農業分野以外の観点からも働きかけることができるといい。 カラス・カモについては、5月に市内全域で銃による捕獲を行っている。警戒心を持たせるために今後も続けていくことは有効である。 今後も環境整備、捕獲、侵入防止対策の3つを継続して取り組むことが求められている。被害防止は長期的な視点で考えることが必要であり、引き続き、捕獲圧力をかけ続けることが大切である。	継続的な捕獲活動により、着実に成果が上がっている。 イノシシ・シカ対策については侵入防止柵の設置が進行中であり、生育環境の整備の取組と併せて今後効果が期待される。 ハクビシン・アライグマの出没が市内全中心に増加しており、市民向けの対策意識啓発を含め総合的な対応が必要である。
		R5	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ツキノワグマ ハクビシン・ アライグマ カラス カモ	有害捕獲	くくりワナ150基 クマ捕獲器1基 サル捕獲器2基	協議会			有害鳥獣捕獲実施体制の整備を充実させ、捕獲を促進したことで農作物の被害軽減を図ることができた。													
		R6	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ツキノワグマ ハクビシン・ アライグマ カラス カモ	有害捕獲	くくりワナ229基 アライグマ、ハクビシン捕獲網 （大・中）各2個	協議会			有害鳥獣捕獲実施体制の整備を充実させ、捕獲を促進したことで農作物の被害軽減を図ることができた。													
さくら市鳥獣被害対策協議会		R5	イノシシ ハクビシン アライグマ カラス カモ	有害捕獲	くくりわな70基 箱わな15基 電気止めさし器15台 トレイルカメラ4台 アニマルセンサー4台 わなプレート	協議会			有害鳥獣の捕獲体制が整備され、被害の軽減に繋がった。	イノシシ 0千円 ハクビシン・アライグマ 59千円 カラス類 2,337千円 カモ類 2,337千円 合計 4,733千円	イノシシ 0千円 ハクビシン・アライグマ 53千円 カラス類 2,103千円 カモ類 2,103千円 合計 4,259千円	イノシシ 0千円 ハクビシン・アライグマ 0千円 カラス類 1,750千円 カモ類 1700千円 合計 3,450千円	イノシシ 0千円 ハクビシン・アライグマ 983% カラス類 250% カモ類 272% 合計 270%	イノシシ 0a ハクビシン・アライグマ 78a カラス類 258a カモ類 258a 合計 594a	イノシシ 0a ハクビシン・アライグマ 70a カラス類 232a カモ類 232a 合計 534a	イノシシ 0a ハクビシン・アライグマ 0a カラス類 135a カモ類 155a 合計 290a	イノシシ 0a ハクビシン・アライグマ 983% カラス類 437a カモ類 396% 合計 507%	イノシシは市に被害の連絡があった農業者等に対し、市職員と猟友会員で現地確認を行い、被害防止対策指導のほか猟友会への年間業務委託により捕獲を実施。令和6年度は捕獲頭数12頭。計画目標は達成。捕獲担い手確保を目的とした猟友会員数増加に対する施策を市で講じると共に捕獲機材導入について猟友会員から意見を求め捕獲率向上に努めていく。 ハクビシン・アライグマは、被害のあった者が市の捕獲許可を受けて捕獲を実施する。農作物被害は減少傾向・生活環境被害が増加傾向。令和6年度の捕獲頭数はハクビシン5頭。計画目標は達成。アライグマの対策の検討及びわなの講習会等の開催による捕獲者の技術の向上の施策を進めていく。 カラス・カモ類は、被害が増える田の定植期（毎年5月）に猟友会への業務委託により市内一斉の予察捕獲を実施。計画目標は達成。	対象鳥獣のすべてにおいて目標値を達成しており、捕獲等の対応の成果であると一応評価できるが、軽微な被害が把握しきれていない可能性もあるので注意が必要と思われる。 ハクビシン、アライグマについては、わなの貸出しによる被害者自らが行う捕獲が主要な対策となっているが、捕獲技術が未熟なこともあり得るので、積極的に被害防除や環境整備も含めた講習会等の開催を検討すべきである。 特にアライグマは生息域の拡大や爆発的な個体数の増加が懸念されることから、農家以外の市民も対象とした普及・啓発が必要である。 イノシシについては、鬼怒川、荒川及び那須烏山市から連続する森林地帯が分布拡大の経路となっている可能性があり個体数の増加も予想されるので、少数精鋭の実施隊の整備など捕獲体制の強化が望まれる。	被害防止指導員や猟友会との連携により捕獲について一定の成果が上がっている。 ハクビシン・アライグマについては市民全体で対策に取り組めるよう普及啓発が必要である。
		R6	イノシシ ハクビシン アライグマ カラス カモ	緊急捕獲活動	イノシシ成獣1頭、ハクビシン3頭	協議会			緊急捕獲活動により捕獲従事者の意欲が高まり、効果的な捕獲に繋がった。													
益子町鳥獣被害対策協議会	益子町	R4	イノシシ ハクビシン	侵入防止柵 有害捕獲 緊急捕獲活動	WM柵620m くくりわな25基 イノシシ成獣122頭、イノシシ幼獣2頭、ハクビシン21頭、アライグマ4頭	協議会			集落全体に柵を設置し、広域的かつ効果的に対策ができた。 有害捕獲の実施体制が整備され、効果的な捕獲に繋がった。また、捕獲従事者の捕獲意欲が向上し、効果的な捕獲に繋がった。	イノシシ 8,779千円 ハクビシン 11,675千円 計 20,454千円	イノシシ 5,267千円 ハクビシン 7,005千円 計 12,272千円	イノシシ 1,974千円 ハクビシン 3,956千円 計 5,930千円	イノシシ 194% ハクビシン 165% 計 178%	イノシシ 464a ハクビシン 47a 計 511a	イノシシ 278a ハクビシン 28a 計 306a	イノシシ 243a ハクビシン 18a 計 261a	イノシシ 119% ハクビシン 153% 計 122%	目標達成率においては、農作物被害額および被害面積のいずれも目標値を上回る減少を達成した。 また、町猟友会による有害鳥獣の捕獲頭数が増加したことにより、効果的な捕獲の実施が確認された。それに伴い人里への出没頻度が低下し、農作物被害の抑制に寄与した。 さらに、防護柵や緩衝帯の整備については、継続的に実施しており、これらの取組が被害軽減に効果を上げている。 今後も引き続き、これらの取組を継続していく予定である。	獣害対策においては、①環境整備、②防護柵の設置、③加害獣の捕獲をバランスよく総合的に実施することが重要であり、被害減少をより確実なものとするためには、「地域にイノシシを寄せ付けない」との視点から「①環境整備」が是非とも必要である。 ①については、とちぎの元気な森づくり県民税の利用、②については町単独事業イノシシ被害防止対策事業補助金および鳥獣被害防止総合対策交付金の利用、③については猟友会への駆除委託を通じて、総合的な対策が継続的に講じられてきており、農作物の被害軽減に効果を上げている。 地域によってはややもすると「③加害獣の捕獲」に偏った対策がなされることが多くあるなかで、特に①の環境整備の視点から町内全域で里山林整備が継続的に行われていることは「地域にイノシシを寄せ付けない」との視点から高く評価されるものであり、他の模範とされるべき内容であると考える。	３年間で43か所の、野生鳥獣被害軽減のための里山林整備を行い、野生鳥獣が農耕地に出現しにくくしているのは、他市町の模範となる取組であり、手間がかかるが効果的な取組と評価できる。被害は確実に減少しており、今後の取組が期待される。
		R5	イノシシ ハクビシン	緊急捕獲活動	イノシシ成獣202頭、イノシシ幼獣5頭、ハクビシン31頭、アライグマ8頭	協議会			捕獲従事者の捕獲意欲が向上し、効果的な捕獲に繋がった。													
		R6	イノシシ ハクビシン	緊急捕獲活動	イノシシ成獣205頭、イノシシ幼獣7頭、ハクビシン27頭、アライグマ7頭	協議会			捕獲従事者の捕獲意欲が向上し、効果的な捕獲に繋がった。													

壬生町有害鳥獣対策協議会		R5	ニホンジカ アライグマ	有害捕獲	箱わなX1基 箱わなW14基 くくりわな65基 電気止めさし器1基 わな用プレート メッキワイヤー 小動物用さすまた 暗視カメラ 実施隊活動経費	協議会			わなの増設等により捕獲体制が整備され、捕獲につながった。	イノシシ 0千円 ニホンジカ 0千円 ニホンザル 0千円 鳥類 0千円 ハクビシン 3千円 アライグマ 0千円 タヌキ 1千円 計 4千円	イノシシ 0千円 ニホンジカ 0千円 ニホンザル 0千円 鳥類 0千円 ハクビシン 1千円 アライグマ 0千円 タヌキ 0千円 計 1千円	イノシシ 0千円 ニホンジカ 0千円 ニホンザル 0千円 鳥類 0千円 ハクビシン 0千円 アライグマ 2,039千円 タヌキ 0千円 計 2,263千円	イノシシ 0% ニホンジカ 0% ニホンザル 0% 鳥類 0% ハクビシン 150% アライグマ − タヌキ −223% 計 −75%	イノシシ 0a ニホンジカ 0a ニホンザル 0a 鳥類 0a ハクビシン 5a アライグマ 0a タヌキ 1a 計 6a	イノシシ 0a ニホンジカ 0a ニホンザル 0a 鳥類 0a ハクビシン 1a アライグマ 0a タヌキ 0a 計 1a	イノシシ 0a ニホンジカ 0a ニホンザル 0a 鳥類 0a ハクビシン 0a アライグマ 3a タヌキ 1a 計 4a	イノシシ 0a ニホンジカ 0a ニホンザル 0a 鳥類 0a ハクビシン 125% アライグマ 0a タヌキ 0a 計 40%	事業を活用し有害鳥獣捕獲の体制強化をすることでニホンジカ、アライグマの捕獲件数が増加した。 しかしながら、アライグマ、タヌキは基準年(R2)と目標年(R6)を比較すると被害が大幅に増え目標が未達成となった。原因としては、基準年(R2)時点ではアライグマの被害が無かったが目標年(R6)で発生した。また、タヌキにおいては高収益作物である「いちご」の食害が被害金額を大きく引き上げた。	深刻な農業被害等が発生する前の段階で、実施隊の整備、わな資材の提供、狩猟免許取得者支援などを実施していることについては評価できる。 しかしながら、対策が捕獲に偏り防除や環境整備の対策が不十分で、住民への普及啓発的な事業の展開も十分には成されていないことから、今後は予防的な観点からもバランスのよい対策を検討する必要がある。 シカ、イノシシの対策については、河川沿いを重点地域に位置づけるなど、河川管理者との連携も模索する必要がある。 アライグマ、ハクビシン、タヌキについては、3種をセットとしてとらえ、町内全域の住民を対象にした普及啓発のための講演会や講習会が速やかに開催されることが期待される。	実施隊による捕獲を中心とした対策に努めており、大型獣の被害はないが、アライグマ等の小型獣の被害が多く発生してきており、目標達成にはいたらなかった。今後は更なる捕獲の強化を図るとともに、地域住民への学習の場の設定や環境整備対策の支援を図っていく必要がある。
		R6	ニホンジカ アライグマ	有害捕獲	箱わなX6基 くくりわな10基 鼻くくりわな14基 電気止めさし器19基 捕獲用槍 実施隊活動経費	協議会			わなの増設等により捕獲体制が整備され、捕獲につながった。											
野木町有害鳥獣被害対策協議会	野木町	R4	イノシシ ハクビシン アライグマ	有害捕獲	・電気止差機購入2基 ・くり罠購入10基 ・ハクビシン、アライグマ用箱わな7基 ・イノシシ捕獲駆除活動延べ56回 ・野性鳥類駆除活動延べ21回 ・巡回活動等延べ432回	協議会			罠や関連備品等の増設により捕獲団体の捕獲体制が整備され、効果的な捕獲につながった。	イノシシ 61千円 ハクビシン・アライグマ 0千円 計 61千円	イノシシ 0千円 ハクビシン・アライグマ 0千円 計 0千円	イノシシ 22千円 ハクビシン・アライグマ 0千円 計 22千円	イノシシ 63% ハクビシン・アライグマ − 計 63%	イノシシ 1a ハクビシン・アライグマ 0a 計 1a	イノシシ 0a ハクビシン・アライグマ 0a 計 0a	イノシシ 12a ハクビシン・アライグマ 0a 計 12a	イノシシ −110% ハクビシン・アライグマ − 計 −110%	町の西側に流れる思川河川敷及びそれに隣接した渡良瀬遊水地内のイノシシ生息数が実施期間内に増加し、思定よりも広い面積での農業被害が発生してしまった。(達成率−110%) (※渡良瀬遊水地内のイノシシ生育数:令和元年度205頭、令和5年度834頭、令和6年度1，044頭) 令和4年度より鳥獣被害対策実施隊を発足し、捕獲・駆除体制を強化し被害金額は当初を下回ることができた。ただし、達成率(被害金額)が63%と低値なため、今後改善を要するものと思われる。 アライグマ、ハクビシンの被害は現状把握できていないが、住宅への侵入等が確認されている。適宜箱わなを貸し出し、捕獲駆除を依頼しており、重大な農業被害等は発生していないことから、適切な防除体制であると考えられる。ただし、被害が把握できていないだけで発生している可能性は大いにあるため、被害情報の収集についての改善は、今後、適宜行う必要がある。 イノシシの生息数の増加が想定を上回るものとなっているため、被害防止計画の各目標値について見直しを行うこととしたい。	獣害対策は、環境整備、侵入防止、捕獲を総合的に実施していくことが需要である。 野木町は、イノシシ対策として捕獲をメインとして実施しているようであるが、捕獲のみで獣害対策に一定の成果を得た事例を確認した上で実施しているのだろうか。 野木町の西部は、イノシシの一大生息地となった渡良瀬遊水池及びそれに接続する思川に隣接している。捕獲効率の低調な箱罠を主体とした捕獲に依存した現状において、一大生息地からの侵入を抑止し、被害の軽減を図ることは不可能であると推察される。当該地域については、強固な侵入防止柵の構築等を図るべきである。 一方、他の地区については、詳細な被害状況の把握そして生息状況を把握の上で、適正な防除対策の構築を図るべきである。 防除対策の構築に当たっては、専門家の指導助言のもと調査、検討を図るべきである。 抜本的な防除対策の樹立及び実践がない限り、イノシシ被害の抜本的な改善を図ることは困難であると思われる。 なお、野木町では10年以上前からアライグマの生息が確認され、生息数も大幅に増加しているもの推察される。抜本的な対策強化が望まれる。	実施隊によるイノシシの捕獲の強化に努め、捕獲頭数は増加しており、効果はでてきているものの、思川河川敷や渡良瀬遊水地内のイノシシの生息が大幅に増加してきていることからおり、捕獲と併せて地域住民と連携した環境整備対策に取組などの対策が必要である。
		R5	イノシシ ハクビシン アライグマ	有害捕獲	・箱わな(大型)1基 ・くくりわな10基 ・縦穴掘り作業工具4本 ・ワイヤートラップ4台 ・イノシシ捕獲駆除活動延べ40回 ・巡回活動延べ475回 ・有害鳥獣駆除活動延べ40回	協議会			罠や関連備品等の増設により捕獲団体の捕獲体制が整備され、効果的な捕獲につながった。											
		R6	イノシシ ハクビシン アライグマ	有害捕獲	・イノシシ用くくりわな10基 ・イノシシ用箱わな6基 ・イノシシ用鼻くくりわな2基 ・イノシシ用鼻くくりわな10基 ・箱わな用電気止め刺し13基 ・小動物用電気止め刺し6基 ・イノシシ用止め刺し槍2本 ・イノシシ鼻くくり2基 ・巡回活動延べ907回 ・イノシシ捕獲駆除活動延べ129回	協議会			罠や関連備品等の増設により捕獲団体の捕獲体制が整備され、効果的な捕獲につながった。											
塩谷町	塩谷町	R4	イノシシ ニホンジカ ハクビシン	緊急捕獲活動	イノシシ成獣78頭、イノシシ幼獣3頭、シカ成獣353頭、シカ幼獣2頭、ハクビシン31頭	町			捕獲従事者の捕獲意欲が向上し、効果的な捕獲に繋がった。	イノシシ 7,694千円 ニホンジカ 4,514千円 ハクビシン 206千円 計 12,414千円	イノシシ 7,463千円 ニホンジカ 4,379千円 ハクビシン 200千円 計 12,042千円	イノシシ 5,898千円 ニホンジカ 4,259千円 ハクビシン 0千円 計 8,357千円	イノシシ 777% ニホンジカ 1,522% ハクビシン 3,433% 計 1,090%	イノシシ 6.01ha ニホンジカ 4.09ha ハクビシン 0.03ha 計 10.12ha	イノシシ 5.83ha ニホンジカ 3.97ha ハクビシン 0.03ha 計 9.83ha	イノシシ 4.12ha ニホンジカ 4.00ha ハクビシン 0ha 計 8.12ha	イノシシ 1050% ニホンジカ 75% ハクビシン − 計 690%	ニホンジカ、イノシシについては、捕獲、防除、生息環境管理の3つを柱とした対策に取り組んでいる。 町の事業としては、捕獲に取り組み、ニホンジカ、イノシシ共に、捕獲数の増加に伴い、被害金額、面積も減少させている。 一方、ハクビシンは、捕獲数、被害金額、被害面積、すべて減少していることから、個体数自体が減少しているものと思われる。 引き続き、ニホンジカ、イノシシの捕獲に力を入れていく。	シカ、イノシシの捕獲数は年々増加しているが、生息数が増加しているとの評価は単に捕獲数のみによるものか、捕獲努力量等や捕獲手法の改善等によるものか不明である。 また、生息数が増加しているのに被害量は減少しているとのことであるが、いかなる要因で被害量が減少しているのか。被害量及び捕獲数は被害防止を推進する上で重要な因子である。 これらの因子の把握・分析に当たっては十分留意する必要がある。	侵入防止柵の設置が進んでおり、整備された地域では被害が見られなくなっている。今後も維持されるよう継続的な生育環境管理を支援していく必要がある。 防止柵の設置されていない地域では被害が増加しており、継続した獣害対策が必要である。
		R5	イノシシ ニホンジカ ハクビシン	緊急捕獲活動	イノシシ成獣94頭、イノシシ幼獣1頭、シカ成獣400頭、シカ幼獣1頭、ハクビシン27頭	町			捕獲従事者の捕獲意欲が向上し、効果的な捕獲に繋がった。											
		R6	イノシシ ニホンジカ ハクビシン	緊急捕獲活動	イノシシ成獣99頭、イノシシ幼獣15頭、シカ成獣426頭、シカ幼獣0頭、ハクビシン4頭	町			捕獲従事者の捕獲意欲が向上し、効果的な捕獲に繋がった。											
塩谷町鳥獣被害対策協議会	塩谷町	R4	イノシシ ニホンジカ ハクビシン	侵入防止柵 被害防除 生息環境管理 緊急捕獲活動	WM柵2.370m 実施隊の被害防除指導 緩衝帯整備 イノシシ成獣81頭、イノシシ幼獣7頭、シカ成獣417頭、シカ幼獣2頭、ハクビシン34頭	協議会			柵の設置により、イノシシ・ニホンジカの侵入を防止することができた。 実施隊の被害防除指導や緩衝帯整備を行うことで効果的な被害対策に繋がった。 捕獲従事者の捕獲意欲が向上し、効果的な捕獲に繋がった。	イノシシ 7,694千円 ニホンジカ 4,514千円 ハクビシン 206千円 計 12,414千円	イノシシ 7,463千円 ニホンジカ 4,379千円 ハクビシン 200千円 計 12,042千円	イノシシ 5,898千円 ニホンジカ 4,259千円 ハクビシン 0千円 計 8,357千円	イノシシ 777% ニホンジカ 1,522% ハクビシン 3,433% 計 1,090%	イノシシ 6.01ha ニホンジカ 4.09ha ハクビシン 0.03ha 計 10.12ha	イノシシ 5.83ha ニホンジカ 3.97ha ハクビシン 0.03ha 計 9.83ha	イノシシ 4.12ha ニホンジカ 4.00ha ハクビシン 0ha 計 8.12ha	イノシシ 1050% ニホンジカ 75% ハクビシン − 計 690%	ニホンジカ、イノシシについては、捕獲、防除、生息環境管理の3つを柱とした対策に取り組んでいる。 野生鳥獣対策協議会の事業としては、防除及び生息環境管理に取り組み、3地区で侵入防止柵の設置及び生息環境管理を行い、被害はなくなった。侵入防止柵設置後の維持管理については、地区により温度差がみられることから、適正な維持管理を指導していきたい。	侵入防止柵の設置地区の被害量については、今後の設置や維持管理に資するため、計画期間以前に遡って的確に把握していく必要があると考える。	侵入防止柵の設置が進んでおり、整備された地域では被害が見られなくなっている。今後も維持されるよう継続的な生育環境管理を支援していく必要がある。 防止柵の設置されていない地域では被害が増加しており、継続した獣害対策が必要である。
		R5	イノシシ ニホンジカ ハクビシン	侵入防止柵 被害防除 生息環境管理 緊急捕獲活動	WM柵1.000m 実施隊の被害防除指導 緩衝帯整備 イノシシ成獣84頭、イノシシ幼獣1頭、シカ成獣354頭、シカ幼獣1頭、ハクビシン28頭	協議会			柵の設置により、イノシシ・ニホンジカの侵入を防止することができた。 実施隊の被害防除指導や緩衝帯整備を行うことで効果的な被害対策に繋がった。 捕獲従事者の捕獲意欲が向上し、効果的な捕獲に繋がった。											
		R6	イノシシ ニホンジカ ハクビシン	侵入防止柵 被害防除 緊急捕獲活動	WM柵3.212m 実施隊活動経費 イノシシ成獣89頭、イノシシ幼獣15頭、シカ成獣353頭	協議会			柵の設置により、イノシシ・ニホンジカの侵入を防止することができた。 実施隊で被害防除の取組を行うことで、効果的な被害対策に繋がった。 捕獲従事者の捕獲意欲が向上し、効果的な捕獲に繋がった。											
高根沢町野生鳥獣対策協議会	高根沢町	R4	イノシシ ハクビシン カラス カモ	有害捕獲 被害防除	イノシシ用くくり罠捕獲機160基 電気止め刺し4セット 実施隊巡回・事務用購入	協議会			イノシシの出没数が減少し、被害が発生しなかった。また、捕獲関係資材を整備することで捕獲体制が強化された。	イノシシ 3千円 ハクビシン 45千円 カラス類 143千円 カモ類 298千円 計 489千円	イノシシ 0千円 ハクビシン 40.5千円 カラス類 129千円 カモ類 268千円 計 437.5千円	イノシシ 0千円 ハクビシン 2,719千円 カラス類 227千円 カモ類 460千円 計 3,406千円	イノシシ 100% ハクビシン −5942% カラス類 −600% カモ類 −540% 計 −5664%	イノシシ 0.02ha ハクビシン 0.04ha カラス類 0.32ha カモ類 0.47ha 計 0.85ha	イノシシ 0ha ハクビシン 0.036ha カラス類 0.29ha カモ類 0.42ha 計 0.746ha	イノシシ 0ha ハクビシン 0.04ha カラス類 0.18ha カモ類 0.36ha 計 0.58ha	イノシシ 100% ハクビシン 0% カラス類 467ha カモ類 220% 計 260%	鳥類については、被害面積は減少したものの、被害金額は増加しており、猟友会へ委託している5月の特別駆除を引き続き実施していく。 獣類については、イノシシの被害防除については100%の達成率となったが、依然としてイノシシの目撃情報はあるため、引き続き効率的な捕獲体制を講じていく。 また、ハクビシンについては被害面積・被害金額ともに防止計画目標を達成できなかった。高根沢東部地区でハクビシンの出没数及び被害相談数が増加しているため、罠の設置場所や数量等の検討により捕獲体制を強化していく。猟友会から被害者へ向けて罠の設置方法の指導を行い、被害者自らで罠を設置する必要性も今後検討する。	鳥類については、猟友会による駆除を効果的に行うため農業生産者や関係各所、地域住民との連携・情報共有を密にして被害軽減を目指していただきたい。 獣類については、イノシシについては十分な効果が見られており、計画を継続していただきたい。ハクビシンについては被害増加地区への罠の設置増、農業従事者への箱罠貸与事業も実施していただくことで被害軽減を目指していただきたい。	イノシシについては継続的な罠設置や捕獲体制の強化により被害減少につながっている。 被害金額が増加しているハクビシンについて箱罠の貸与を含め地域ぐるみでの対策に取り組む必要がある。
		R5	イノシシ ハクビシン カラス カモ	有害捕獲 被害防除	イノシシ用くくり罠捕獲機100基 小型動物用箱罠捕獲機9基 実施隊巡回・事務用品購入	協議会			イノシシの出没数が減少し、被害が発生しなかった。また、捕獲関係資材を整備することで捕獲体制が強化された。											
		R6	イノシシ ハクビシン カラス カモ	有害捕獲 被害防除	箱わな大4基 くくり罠30 基 実施隊巡回・事務用品購入	協議会			イノシシの出没数が減少し、被害が発生しなかった。また、捕獲関係資材を整備することで捕獲体制が強化された。											
那須町地域担い手育成総合支援協議会	那須町	R4	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ハクビシン カルガモ カラス サギ類	有害捕獲 緊急捕獲活動	箱わな大4基 箱わな中8基 イノシシ成獣186頭、イノシシ幼獣5頭、シカ成獣67頭、サル成獣3頭、サル幼獣5頭	協議会			新たなわなの導入により捕獲体制が整備され、より効果的な捕獲に繋がった。まts捕獲従事者の捕獲意欲が向上し、効果的な捕獲に繋がった。	イノシシ 30,867千円 ニホンジカ 830千円 ニホンザル 6,164千円 千円 ハクビシン 2,888千円 カルガモ 4567千円 カラス 1114千円 サギ類 811千円 計 47,241千円	イノシシ 21,600千円 ニホンジカ 580千円 ニホンザル 4,300千円 ハクビシン 2,000千円 カルガモ 3,200千円 カラス 780千円 サギ類 570千円 計 33,030千円	イノシシ 7,018千円 ニホンジカ 13千円 ニホンザル 0円 ハクビシン 2,104千円 カルガモ 0千円 カラス 1,857千円 サギ類 0千円 計 10,992千円	イノシシ 257% ニホンジカ 327% ニホンザル 331% ハクビシン 88% カルガモ 334% カラス −223% サギ類 337% 計 225%	イノシシ 1096a ニホンジカ 35a ニホンザル 186a ハクビシン 46a カルガモ 345a カラス 70a サギ類 63a 計 1841a	イノシシ 670a ニホンジカ 25a ニホンザル 130a ハクビシン 30a カルガモ 240a カラス 50a サギ類 40a 計 1185a	イノシシ 830a ニホンジカ 1a ニホンザル 0a ハクビシン 40a カルガモ 0a カラス 40a サギ類 0a 計 911a	イノシシ 62% ニホンジカ 340a ニホンザル 332% ハクビシン 38% カルガモ 329% カラス 150% サギ類 274% 計 142%	イノシシの農作物被害金額は減少したものの、被害面積が縮小しない理由はイノシシの生息域が拡大しているためと推測する。 ハクビシンの農作物被害金額、面積ともに減少にいたらなかったのは個体数増加と、捕獲体制の整備が十分ではないため。 カラスの農作物被害においては果樹被害が多くを占める。果樹園などでは営農者自身に防除を図ってもらっているために、しきれない部分が多いことが顕著である。	イノシシの捕獲頭数を維持することが出来ていることから、実施者たちの意欲は維持できていると思われます。その一方で被害の軽減がみられないことから捕獲以外の対策を行っていく必要がある。主に防除や環境整備による活動や研修会などカラスやハクビシンなどの被害金額が多く出ており、それぞれに特化した対策支援や捕獲体制の構築を行っていく必要があります。 また、専門家や実施隊と農家の方が情報交換をする事が出来る機会を作り、正しい知識を得ることが重要。	イノシシ、サル、シカの被害金額が減少しており、取組の効果があり評価できる。一方でイノシシの被害面積は拡大しており引き続き継続的に対策を実施していく必要があると思われる。 また近年クマの被害も増加していることから次期計画には経減目標を立て、対策していく必要があると思われる。
		R5	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ハクビシン カルガモ カラス サギ類	有害捕獲 緊急捕獲活動	箱わな大3基 イノシシ成獣175頭、イノシシ幼獣16頭、シカ成獣66頭、シカ幼獣3頭、サル成獣7頭、サル幼獣1頭	協議会			新たなわなの導入により捕獲体制が整備され、より効果的な捕獲に繋がった。まts捕獲従事者の捕獲意欲が向上し、効果的な捕獲に繋がった。											
		R6	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ハクビシン カルガモ カラス サギ類	有害捕獲 緊急捕獲活動	くくりわな20基 イノシシ成獣277頭、イノシシ成獣10頭、シカ成獣49頭、シカ幼獣3頭、サル成獣17頭、サル幼獣2頭	協議会			新たなわなの導入により捕獲体制が整備され、より効果的な捕獲に繋がった。まts捕獲従事者の捕獲意欲が向上し、効果的な捕獲に繋がった。											

栃木県	栃木県	R6	－	広域捕獲活動	・とちぎ獣害対策アドバイザー派遣事業（10地区） ・カワウ被害防止対策事業 ・サル生息状況調査 ・クマ生息状況調査 ・シカ生息状況調査	県			・獣類による農作物被害が深刻化している地域等に獣害対策の専門家を派遣して被害状況や加害獣の出没状況を調査し、地域の現状と課題を把握することにより、必要な被害防止対策を情報提供したことにより、地域の取り組みの推進につながった。 ・カワウについて、県内の生息状況を調査（14箇所）し、その結果に基づき広域的に捕獲、追い払いを実施することができた。 ・サルについて、被害地域における位置情報や被害情報等から生息状況を広域的に調査し、得られたデータから群れの捕獲や追い払い等の取り組みの推進につながった。 ・クマについて、生息密度調査や堅果類の豊凶等の調査結果により出没を予測することにより、収穫残渣の除去等の被害対策の推進につながった。 ・シカについて、糞塊密度調査結果に基づいて生息状況を把握し、効果的な捕獲等の対策につながった									農作物被害を軽減するためには、地域ぐるみの取組を浸透させることが重要であり、県としてその取組を支援するため、地域リーダーとなる人材の育成を図るとともに、住民の意識の向上や集落環境の整備、侵入防止柵の設置や捕獲技術向上などの鳥獣被害防止対策を総合的に推進した。野生鳥獣による農作物被害が深刻かつ集落住民の合意形成が図れた地域では、体制が整備され、被害軽減につなげることができた。一方で、被害状況等が正確に把握できず課題意識が無い地域や、新しく被害が発生し始めた地域、地域ぐるみの取組に対する合意形成が図れていない地域では、獣類の生息域が拡大し、対策が追いついていない状況であることが課題である。引き続き、地域の取組を支援してく中で、こうした地域への働きかけが必要であると考える。	－	－
				新技術実証・普及活動	・ICT活用による新技術実証 ・農業被害防止対策サポーター事業				・新技術実証では、新規格の防護柵の実証を行いでは、シカやイノシシに加えサル対策にも活用できることを確認し、効果的な被害防止手法の普及につながった。 ・サポーター事業では、獣害発生地域に獣害対策の専門家を派遣し、専門家の指導の下、普及指導員が被害状況及び加害獣出没状況を調査することにより、被害防止対策の普及指導につながった。											
				人材育成活動	・獣害対策地域リーダー育成研修（13回）				・座学及び現地実習を組み合わせたカリキュラムにより地域ぐるみの獣害対策推進に不可欠な専門的知識と技術を習得させることにより、実施隊員など、地域での鳥獣対策指導を行う立場の人材のスキル向上につながった（13回）。											

注1：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2：都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
3：事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
4：「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
5：鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。
6：被害防止計画に定められた全ての対象鳥獣について、鳥獣ごとに実績値や達成率等を記載すること。また、合算達成率も記載すること。
7：次のいずれかに該当する場合には、達成率が低調であると判定すること。
（1）被害面積、被害金額等について、合算達成率が共に70%未満である場合
（2）次に該当する鳥獣種の被害面積、被害金額等について、対象鳥獣ごとの達成率が共に70%未満である場合
ア　被害金額全体（全ての対象鳥獣における被害金額（実績値）の合計をいう。以下イにおいても同じ。）の2割以上を占めるシカ又はイノシシ
イ　被害金額全体の5割以上を占めるシカ及びイノシシ以外の対象鳥獣
8：目標が未達成となった場合は、「都道府県の評価」の欄に、総合支援チェックシート及び緊急捕獲チェックシートの遵守状況に係る確認結果を記載すること。
なお、遵守状況の確認に当たっては、証拠書類の保存・提出は必須ではない。ただし、聞き取りの結果、書類を保存していると回答があった場合には、当該書類を確認する場合がある。

5　都道府県による総合的評価

県内における鳥獣類による農作物への被害地域は、高い水準で推移していたが、平成28年度をピークに近年は減少傾向であり、獣類被害のうちイノシシによるものが約61%を占め、シカが約9%、ハクビシンによるものは約17%となっている。イノシシによる被害は、平成27年度の過去最大の約1億7千万円から、柵の整備や捕獲を行ったことで減少しているが、対策の進捗が獣類の生息域の拡大に追いついていない状況が続いており、より効果的、効率的な被害防止対策の計画的な実施が求められている。
鳥獣害対策を効果的に進めるためには、地域ぐるみの活動が重要であることから、地域リーダーとなる人材の育成を図るとともに、地域住民の意識の向上や集落環境の整備、侵入防止柵の設置や捕獲技術向上などの鳥獣害防止対策を総合的に推進していく。また、近年野生鳥獣による農作物被害が急増している市町に対しては、重点的に被害防止対策の支援に取り組むほか、捕獲体制の強化とあわせて鳥獣被害防止実施隊の設置を推進し、計画的な鳥獣被害防止対策の取組を進めることとする。